

まちの話題



大口高校生 奨励金交付

3/19



伊佐市役所で大学進学奨励金交付式が行われました。

これは定員割れが続く大口高校への支援策として、市が定める大学に進学する大口高校卒の生徒に対し奨励金を支給するものです。

生徒を代表者して久保田桂仙さんは「奨励金をいただきありがとうございます。大切にに使わせていただきます。大学で学んだことを活かして地域に貢献できるよう頑張ります」と話しました。

災害に備える協定



市は、伊佐災害支援ネットワークと「災害時の情報収集に関する応援協定」を締結しました。この協定により、災害等の不測の事態において、アマチュア無線を活用した情報伝達が期待されます。

五反田勝浩代表は「アマチュア無線は、電力さえあれば交信できるので、災害に強い連絡手段です。今後は、近隣市町の有資格者とも連携して、災害に備える体制を整えたい」と話しました。

大口高校生が考える！伊佐の地域活性化

3/4



大口高校で1・2年生による「伊佐の地域活性化策」発表会があり、少子高齢化社会・医療・福祉・イベントなど身近な課題について、高校生が意見を発表しました。

「まちの賑わい創り」のために、e-スポーツ大会やファッションショーの企画など若者らしい意見のほか、「福祉」に携わる人材確保の取組みなど、幅広い視点から伊佐の未来を考えました。

生徒からは「自分にできることを探して、地域に貢献できる人になりたい」「医療や福祉の人材が足りないことを知り、将来の職業選択の参考になった」などたくさんの意見が出されました。

祝 おめでとうございます

文部科学大臣優秀教職員表彰



下井田智彦教諭(大口小学校)

「職場のみなさんのおかげで、大変名誉な表彰をいただくことができました。子どもたちの学力向上のため、今回導入された電子黒板を有効活用し、指導力の向上に努めてまいります」と話しました。

地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰



牛尾校区コミュニティ協議会

「牛尾っ子見守り隊」として児童の登校時及び毎週水曜日の見守り活動のほか、「牛尾っ子サポーター」による児童の体験活動、伝統芸能の継承活動など、地域が一体となった学校支援活動が高く評価されました。

パソコンを学びのスタンダードに

3/2



市は、市立小中学校に通う児童・生徒にタブレット端末（ノートパソコン）をひとり一台ずつ貸与しました。これは、学校の学習環境の充実を図り、未来社会を切り拓くための資質や能力を育成するために導入されたものです。

3月2日、菱刈中学校で行われた貸与式では、有馬秀文校長が「現代はコンピュータが無くてはならない社会です。タブレット端末を正しく活用し、学習に役立ててほしい」と全校生徒に呼びかけました。学習部長の吉留愛歩さん（2年）は「授業で使うのが楽しみです。利用のルールを守って、大切に使います」と話しました。

“幻の黒豚”がレトルト食品になりました



沖田黒豚牧場が、農林水産大臣から「6次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画認定事業者」に認定されました。県内では64例目で、市内事業者では初。

沖田黒豚牧場では、飼育した黒豚を精肉販売するほか、塩麴角煮などレトルト食品の開発に取り組んでいます。

沖田大作さんは「レトルト食品にすることで、より多くのお客さまに沖田黒豚を食べていただける機会に繋がる。今後も、黒豚本来のおいしさを引き出す商品をつくっていきたい」と話しました。